

■沿革

- 平成13年8月 平成14年度の国土交通省重点施策として取り組むことを公表。
- 平成14年3月 米国のシーニックバイウェイプログラムの実施状況を調査。日本と米国の制度運営上の社会環境の相違点を把握。
- 平成15年2月 「北海道におけるシーニックバイウェイ制度導入モデル検討委員会」(委員長=石田東生筑波大学教授)が認定され、シーニックバイウェイ北海道の取り組みを開始。
- 平成15年4月 旭川～占冠ルート、千歳～ニセコルートの2つをモデルルートに指定。シーニックバイウェイの取り組みに賛同する地域活動団体を募集。
- 平成15年7月 活動団体の認定。32団体(平成16年には38団体)が認定され、シーニックバイウェイ北海道のモデルルートとしての活動をスタート。
- 平成16年9月 モデルルートで集中活動月間を実施。期間中景観ポイントや地域固有の情報を入手できるシーニックバイウェイ情報拠点を設置。
- 平成16年9月 アメリカ・バイウェイ・リソースセンターのヘンリー・ハンカ所長来日。モデルルートを視察。
- 平成16年10月 両ルートの活動団体のメンバーが参加し、米国シーニックバイウェイの視察を実施。
- 平成16年10月 制度素案についてパブリックコメントを実施。
- 平成17年2月 「北海道におけるシーニックバイウェイ制度導入モデル検討委員会」において報告書を取りまとめる。
- 平成17年3月11日 シーニックバイウェイ北海道推進協議会設立。ルート提案の募集開始。
- 平成17年5月9日 支笏洞爺ニセコルート、大雪・富良野ルート、東オホーツクシーニックバイウェイの3つが指定ルートとして、函館・大沼・噴火湾ルート、釧路湿原・阿寒・摩周ルートの2つが候補ルートとして登録される。
- 平成17年6月 正式ルート指定後、初の集中活動月間を実施。
- 平成17年9月 秋の集中活動月間の実施。
- 平成17年10月 米国シーニックバイウェイカンファレンスに参加。
- 平成17年11月 シーニックバイウェイ北海道の支援組織として「シーニックバイウェイ支援センター」が指定される。
- 平成18年2月 冬の集中活動月間を実施。
- 平成18年4月18日 宗谷シーニックバイウェイが指定ルートとして認定、南十勝夢街道、十勝平野・山麓ルート、萌える天北オロロンルートの3つが候補ルートとして登録される。
- 平成18年6月 「シーニックバイウェイ・トレジャーハント」の実施。
- 平成18年8月 「シーニックバイウェイ北海道「みち」からはじまる地域自立」が発刊。
- 平成18年11月13日 函館・大沼・噴火湾ルート、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイが指定ルートに認定される。
- 平成19年5月 「シーニックドライブマップ」の発刊。
- 平成20年5月12日 萌える天北オロロンルートが指定ルートとして認定、どうなん・追分シーニックバイウェイ、トカプチ雄大空間の2つが候補ルートとして登録される。
- 平成20年8月 シーニックの森づくりはじまる。森の認定スタート。
- 平成21年5月13日 十勝平野・山麓ルートが指定ルートとして認定、札幌南シーニックバイウェイが候補ルートとして登録される。
- 平成22年5月17日 トカプチ雄大空間が指定ルートに認定される。
- 平成23年7月29日 南十勝夢街道および札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート(旧名:札幌南シーニックバイウェイ)が指定ルートとして認定される。
- 平成24年12月1日 Follow Me Japan Pte.Ltd.、株式会社トヨタレンタリース札幌、北海道コカ・コーラボトリング株式会社、札幌グランドホテルとの包括連携協定が締結される。
- 平成25年6月24日 層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ、天塩川流域ミュージアムパークウェイの2つが候補ルートとして登録される。
- 平成25年6月24日 株式会社デンソーセールス 北海道支社、株式会社阿寒グランドホテルとの包括連携協定が締結される。
- 平成27年12月21日 どうなん追分シーニックバイウェイルートが指定ルートとして認定される。
- 平成27年3月 制度検討委員会(委員長=小林英剛)。
- 平成27年9月 制度検討委員会とりまとめ。
- 平成28年8月 実施要綱・基本方針の改訂。

■シーニックバイウェイ北海道推進協議会【構成団体・機関】

北海道商工会議所連合会、北海道経済連合会、北海道商工会連合会、北海道観光振興機構、日本観光振興協会北海道支部、日本旅行業協会北海道支部、日本自動車連盟北海道本部、北海道、林野庁北海道森林管理局、経済産業省北海道経済産業局、環境省北海道地方環境事務所、国土交通省北海道運輸局、国土交通省北海道開発局

■シーニックバイウェイ北海道【協力団体及び機関】

北海道農業協同組合中央会、北海道林業協会、北海道市長会、北海道町村会、株式会社 ACT NOW、総合商研株式会社、株式会社えんれいしゃ、株式会社ゼンリン、株式会社リクルート北海道じゃらん、パナソニック システムネットワークス株式会社

〈発行〉シーニックバイウェイ北海道推進協議会 事務局

TEL:011-709-2311 詳しくは▶ URL: <http://www.hkd.mlit.go.jp/sbh/>

〒060-8511 札幌市北区北8条西2丁目 札幌第1合同庁舎 国土交通省北海道開発局 開発監理部 開発連携推進課 建設部 道路計画課

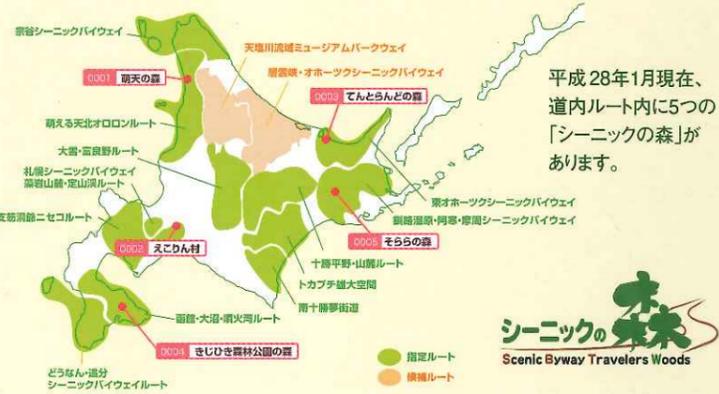


シーニックバイウェイ北海道におけるCO₂削減など地球環境へ配慮した新たな取り組み

シーニックバイウェイ北海道推進協議会では、平成17年度よりエコツーリングの普及、推進によるCO₂排出削減に取り組んできました。平成19年8月には、地球環境問題への社会的要請の高まりを受けて、基本方針に「二酸化炭素(CO₂)削減など地球環境への配慮」を位置付け、「CO₂削減の取り組み」、「シーニックバイウェイ・カーボンオフセット」の活動の手引きを作成しました。

～シーニックの森づくり～

「シーニックの森づくり」は、シーニックバイウェイの取り組みを通じて、観光客や地域住民、NPO、関係機関、企業等が連携し、CO₂吸収源となる森づくり(植樹や維持管理)を行うものです。また、シーニックの森づくりの取り組みのひとつとして、ドライブ観光でどうしても排出してしまうCO₂を吸収するための植樹活動を、観光客の参加・費用負担のもとで行う「シーニックバイウェイ・カーボンオフセット」と一体で行うものであり、CO₂排出量に対し自ら植樹するCase.1と、代行者が植樹するCase.2の2つがあります。



一般社団法人 シーニックバイウェイ支援センター

シーニックバイウェイ支援センター(略称:リソースセンター)は、シーニックバイウェイの理念を浸透させるための広報活動を行います。また、活動の活性化に不可欠な民間と行政との連携を図り、これらの連携を専門的な観点から下支える組織として、美しい景観づくり、魅力ある観光空間づくり、活力ある地域づくりに貢献します。

シーニックバイウェイ支援センターの目的

日本におけるシーニックバイウェイの持続的な推進・普及・発展を支援することを目的としています。

シーニックバイウェイ支援センターの事業内容

1. シーニックバイウェイに関わる情報共有・発信・連絡
2. シーニックバイウェイに関わる各種調査・研究
3. シーニックバイウェイに関わる広報・プロモーション
4. シーニックバイウェイに関わる人材育成・教育・資格認定
5. 各種団体の連携を促進するためのコーディネート
6. 前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

主な業務

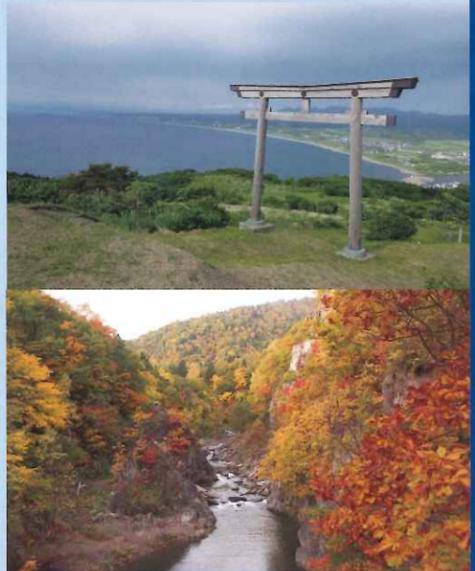
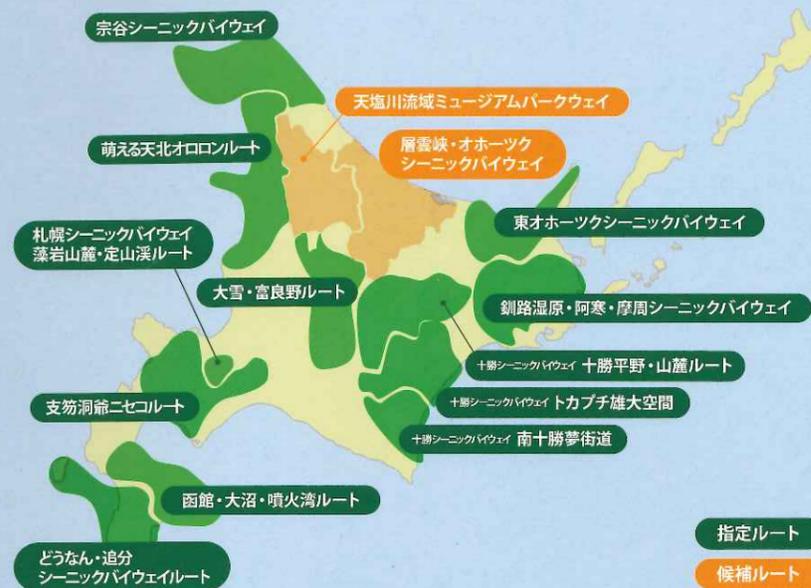
- ・ホームページの運用
- ・メールリストの運用
- ・各種出版物の発行
- ・広報誌の発行
- ・シーニックフォト倶楽部の運営
- ・勉強会の開催
- ・ビジネスモデルの開発
- ・ロゴマークの管理委託
- ・刊行物等の制作・販売
- ・視察の企画・受け入れ
- ・米国視察企画
- ・シーニックドライブマップ
- ・「シーニックの森」の認証

お問い合わせは

〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2-17 セントラル札幌ビル
電話:011-708-0429 FAX:011-708-0430
E-mail: info-sc@scenicbyway.jp URL: <http://www.scenicbyway.jp/>

シーニックバイウェイ北海道

制度のご案内



※シーニックバイウェイ(Scenic Byway)とは、景観・シーン(Scene)の形容詞シーニック(Scenic)と、わき道・より道を意味するバイウェイ(Byway)を組み合わせた言葉。地域と行政が連携し、景観や自然環境に配慮し、地域の魅力を道でつなぎながら個性的な地域、美しい環境づくりを目指す施策です。



シーニックバイウェイ北海道

美しい感動と出逢う道

シーニックバイウェイ北海道は、みちをきっかけに地域住民と行政とが連携し、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりを提案します。



**シーニックバイウェイ
オフィシャルマークについて**

HOKKAIDO.
地域の人たちが主体となって取り組む「美しい景観づくり」や「魅力ある観光空間づくり」の熱い心は訪れる人たちに感動のココロを呼びおこします。「心とココロ」が出逢う時「活力ある地域づくり」が動き出します。

「道」をハートの形にしたオフィシャルマークは、いわば「シーニックバイウェイ制度の心」です。

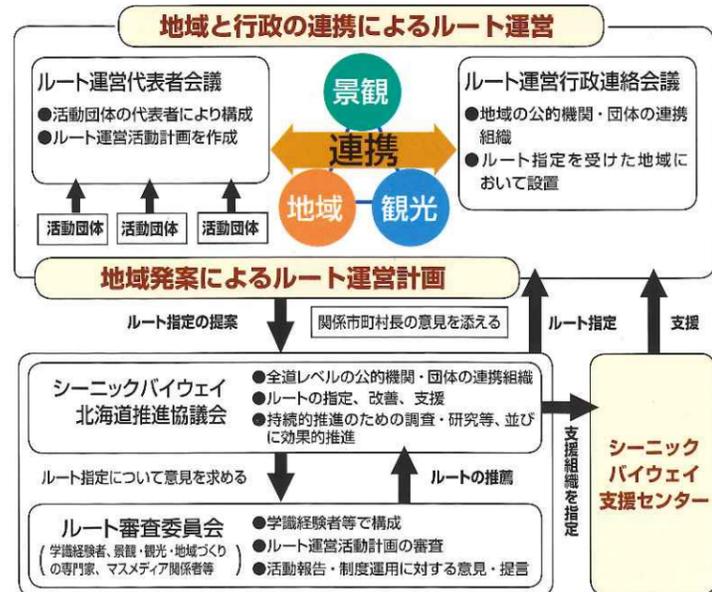
■シーニックバイウェイ北海道の枠組み

シーニックバイウェイ北海道では、地域で組織されたルート運営代表者会議が、ルート運営活動計画を作成し、ルートの提案を行います。提案されたルートは、審査委員会の意見を踏まえて、シーニックバイウェイ北海道推進協議会がシーニックバイウェイルートとして指定、もしくは候補ルートとして指定します。これにより、地域と行政が連携し、シーニックバイウェイルートにおいて景観その他の地域資源の保全・改善等に資する活動を円滑に実施することができます。

- シーニックバイウェイルートでは、対象となる地域で組織されたルート運営代表者会議と行政が連携し、様々な活動が実施されます。
- シーニックバイウェイ候補ルートには、ルート運営活動計画の熟度を高めるための取り組みへの協力、支援が行われます。



■シーニックバイウェイ北海道の概要



■「シーニックバイウェイ北海道」推進の基本方針

競争力のある美しく個性的な北海道の実現



■シーニックバイウェイ北海道で行われている主な活動

美しい景観づくり

活動団体や地域間の連携などにより、沿道景観をより魅力的にする活動。



沿道の花植活動

- 植栽活動による広域的な花ロードづくり
- 現地調査によるルート内の沿道景観診断
- 地域資源の広域的視察・発掘調査
- 広域的な看板の撤去・集約化や統一性のある看板整理の提案
- ビューポイントの調査・維持管理

活力ある地域づくり

地域資源を生かしたまちづくりの勉強会など、地域の誇りを育む活動。



全道フォーラム

- まちづくりのシンポジウムや講演会などの開催
- 沿道景観をテーマにしたフォトコンテストの実施
- 歴史的建造物など、地域資源を生かしたまちづくりの勉強会
- 外国人旅行者へのホスピタリティ向上のための英会話講座
- 周遊ルートづくりや気軽に立ち寄れる案内所の開設

魅力ある観光空間づくり

旅行者の満足度向上を目指し、観光メニューの創出、イベントの実施、情報発信など。



ウィンターサーカス

- 地域を再発見、紹介するツアー、イベントの開催
- 冬のビューポイント、冬の観光メニューの調査・開発
- ビューポイントを紹介したフリーペーパー、マップ、ホームページ、英語版ガイドブックなどの作成
- メーリングリストによる活動団体の情報共有、意見交換

■行政の取り組み事例

道路管理者と地域が連携し、沿道景観を保全・改善しています。



シーニックバイウェイ北海道 Q&A

どうして「シーニックバイウェイ北海道」に取り組むことになったのですか？

北海道をドライブする個人型の旅行が人気となっています。アンケート調査によると、その一番の目的は「景観を楽しむこと」。このため、景観をもっとよくなり、守ったりすることが、これからの北海道観光を振興し、地域を元気にするために重要な取り組みあると考えました。そしてこの取り組みを進めるにあたって、行政が参加しながらも、地域の方々が自らの発案により行うことが、成功させるためには必要と考えました。このため、平成15年、16年に地域の方々と行政が連携して様々な取り組みを試行的に実施し、その成果を踏まえ、平成17年3月より「シーニックバイウェイ北海道」として本格的にスタートしたところです。

なぜ「シーニックバイウェイ」という名称なんですか？

「シーニックバイウェイプログラム」はアメリカで先行的に取り組まれている制度ですが、これを参考にしつつも、北海道にあった仕組みとしたため、アメリカのものとは異なる制度となりました。しかし「政府が進めるビジョン・日本の一環として外国人観光客へのPRをしやすいくこと」「日本語の概念にない取り組みであること」「寄り道

（バイウェイ）という概念がよいこと」などの理由から、学識経験者や観光の専門家からなる委員会にて「シーニックバイウェイ北海道」と命名されました。なお、現在、全国を対象とした「日本風景街道」という取り組みが広がっているところです。

地域の方々の発案が必要というのはどうしてですか？

沿道の景観を作っているのは、農業や林業、街中の商店街など地域の方々の営みです。地域の方々が元気に暮らし、経済的にも豊かになり、地域生活の営みが維持されることが、そのまま沿道の風景の保全につながると思われまます。これら「景観」「観光」「地域」という三つの要素を（道）を通して連携させ、地域を元気にする取り組みが「シーニックバイウェイ北海道」として望ましく考えます。

中心となっているのは誰ですか？

活動の中心は地域の方々です。この取り組みは「みち」をきっかけとして、地域の方々の主体的な取り組みを「シーニックバイウェイ北海道推進協議会」という総合的な組織でバックアップするものです。「シーニックバイウェイ北海道推進協議会」は、道商連、道経連、観光機構などの道内の経済団体、北海道や国の出先機関などの行政機関で構成され、事務局はこの取り組みを始めた国土交通省の地方支分部局である北海道開発局が担当しています。

支援組織の「シーニックバイウェイ支援センター」って何ですか？

シーニックバイウェイにかかわる情報共有、発信、連絡、及び広報、プロモーションと各ルートの活動へのアドバイスを行うため2005年7月に設立されたシーニックバイウェイ北海道推進協議会の実施要綱・第17条で定める基本方針に基づき、支援組織として指定されています。

この取り組みに参加するとどんな支援があるのですか？

指定ルートでは、「行政連絡会議」が設置され、関係機関により、各種活動への参加、連携した活動などが行われるとともに「シーニックバイウェイ支援センター」によって、広報・プロモーションなどが積極的に行われます。また、候補ルートでは、指定ルートの申請に必要な「ルート運営活動計画」を地域の方々が作成するにあたり、ワークショップの開催や参加など運営計画策定のお手伝いを関係機関が行います。

観光客や一般の人の認知度はどうですか？

旅行代理店やレンタカーの会社が「シーニックバイウェイ北海道」を取り入れた商品を発売したり、旅行者に地図を配布するなど、北海道観光に「シーニックバイウェイ北海道」が徐々に浸透しています。旅行雑誌などにも大きく掲載されています。

シーニックの森づくりとは

シーニックバイウェイ北海道では2005年度よりCO₂削減に配慮したエコツーリングの提案や、ドライブ観光の際に排出されるCO₂を植樹によって埋め合わせる「カーボン・オフセット」に取り組んでいます。

この取り組みの一環として「シーニックの森」づくりを2008年度からスタートしました。「シーニックの森」で、北海道を訪れた観光客のみなさんに費用を負担していただき、ドライブで排出されたCO₂を、植樹によりオフセットしてもらうというものです。

植樹を通じて地域とのふれあいや関心を深めるとともに、ドライブで排出しているCO₂を樹木がどれ位の期間で吸収するか実感を持って認識いただくことで、環境に配慮したドライブ観光を目指しています。



※シーニックバイウェイ支援センターは、平成20年5月12日にシーニックバイウェイ推進協議会より「シーニックの森」の認定機関の指定をうけました。シーニックバイウェイ北海道の各ルートから申請を受け審査し「シーニックの森」として確認を行うほか、「カーボンオフセットのための植樹を行いたい方」「シーニックの森づくりに参加したい方」「カーボンオフセット型のツアーを企画されている方」への対応を行います。



■シーニックの森認定までの流れ



※申請者・所有者・権利者が同一の場合は三者の同意は必要ありません。



シーニックの森づくり(シーニックバイウェイ・カーボンオフセット)が目指すもの

- 環境に優しい新しい旅の形を一緒に育てたい
多くの人に地域の宝を見もらうためには、車の利用が必要となりCO₂をどうしても排出してしまいます。地球に負担をかけないために、多くの人に森づくりに参加してもらい、楽しみながら環境にも優しい、新しい旅の形を広めていきたいと思っています。
- 地球環境のことを考えるきっかけにしてほしい
成長が早いといわれているトドマツは30年間で約12mに高さ成長しますが、固定できるCO₂の貯蔵量は1本あたり、ガソリン約70L分にすぎません。エコツーリングなど日々の生活でのCO₂削減にこれまで以上に、取り組むきっかけにして欲しいと思っています。
- 訪れる方との出会いを大切に育てたい
樹木は成長するほどCO₂吸収量が飛躍的に増加します。観光客の皆様が植樹した木は、シーニックの森として成長していきます。自分が植樹した木に愛着を持ち成長を、また現地に訪れて見てもらう。そんなつながりも育てていきたいと思っています。

■シーニックバイウェイ北海道推進協議会【構成団体・機関】

北海道商工会議所連合会、北海道経済連合会、北海道商工会連合会、北海道観光振興機構、日本観光振興協会北海道支部、日本旅行業協会北海道支部、日本自動車連盟北海道本部、北海道、林野庁北海道森林管理局、経済産業省北海道経済産業局、環境省北海道地方環境事務所、国土交通省北海道運輸局、国土交通省北海道開発局

■シーニックバイウェイ北海道【協力団体及び機関】

北海道農業協同組合中央会、北海道林業協会、北海道市長会、北海道町村会、株式会社ACT NOW、総合商研株式会社、株式会社えんれいしゃ、株式会社ゼンリン、株式会社リクルート北海道じゃらん、パナソニックシステムネットワークス株式会社

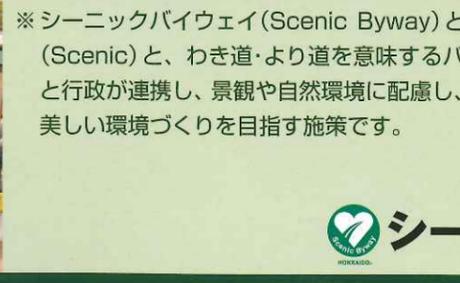
〈発行〉シーニックバイウェイ北海道推進協議会 事務局
TEL:011-709-2311 詳しくは▶ URL: <http://www.hkd.mlit.go.jp/sbh/>

〒060-8511 札幌市北区北8条西2丁目 札幌第1合同庁舎 国土交通省北海道開発局 開発監理部 開発連携推進課 建設部 道路計画課



シーニックバイウェイ北海道

取組のご案内



※シーニックバイウェイ(Scenic Byway)とは、景観・シーン(Scene)の形容詞シーニック(Scenic)と、わき道・より道を意味するバイウェイ(Byway)を組み合わせた言葉。地域と行政が連携し、景観や自然環境に配慮し、地域の魅力を道でつなぎながら個性的な地域、美しい環境づくりを目指す施策です。

シーニックバイウェイ北海道

美しい感動と出逢う道

シーニックバイウェイ北海道は、みちをきっかけに地域住民と行政とが連携し、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりを提案します。

民間企業等との包括連携協定

シーニックバイウェイ北海道は、競争力のある美しく個性豊かな北海道を実現していくことを目的として、民間団体・企業等と、北海道固有の景観、自然、歴史、文化、レクリエーション資源等地域資源を最大限活用し、双方の資源を有効活用した効果的連携活動として、連携に関する包括協定制度を平成24年度より開始しました。

- 平成24年12月1日 株式会社トヨタレンタリース札幌(株)グランビスタホテル&リゾート札幌グランドホテル、北海道コカ・コーラボトリング(株)、Follow Me Japan Pte.Ltd.との包括連携協定が締結される。
- 平成25年6月24日 株式会社デンソーセールス北海道支社、株式会社阿寒グランドホテルとの包括連携協定が締結される。

※包括連携協定の募集条件・提案応募方法などの詳細は、シーニックバイウェイ北海道推進協議会 HP をご覧ください。
http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_doro/sbh/index.html

包括連携協定企業との連携取組事例

トヨタレンタリース札幌

- シーニックドライブマップ、Scenic Byway (ドライブ観光情報紙)での企業広告
- トヨタレンタリース札幌とシーニックバイウェイ北海道の連携企画「シーニック・トレジャーハント」の展開
- トヨタレンタリース札幌とシーニックバイウェイ北海道の連携企画「シーニック&北海道ご当地キャラスタンプラリー2013」の展開
- トヨタレンタリース札幌 札幌駅東店、新千歳空港ボラプラでのシーニック展示ブース設置
- 新千歳空港ボラプラでのシーニックPR展示 (札幌駅東店)
- シーニックルート毎のパンフレット配布 (新千歳空港ボラプラ)

SAPPORO GRAND HOTEL

ホテル館内でのシーニックバイウェイ北海道PR展示(継続事業/通年)

Coca-Cola

人と未来をつなぐ100年の木プロジェクト (大雪・富良野ルート、十勝シーニックバイウェイ エリア)への協力

- 地域版「道の駅」スタンプラリー等への協賛

▲スタンプラリー等への協賛

PRIME Follow Me JAPAN

- シーニックルートを巡るドライブツアー企画
- シーニックルートを巡るサイクリングツアー企画
- シンガポール旅行商談フェアでのPR

▲シーニックルートを巡るサイクリングツアーを企画 (支笏洞爺ニセコルート)

▼シンガポール旅行商談フェア (NATAS)

DENSO 株式会社デンソーセールス

- シーニックバイウェイ北海道広報ツール (HP、冊子など)へマップコードの無償提供
- シーニックバイウェイの広報ツールへ MapQR を提供。

▲MapQRとは、地点情報がある最新のQRコードで、Qコードを読み取ることで、スマホの地図で簡単に、地図掲載の地図、カーナビの目的地に設定することができる移動支援ツールです。

鶴雅グループ

ココロ遊ばせる...

- 鶴雅グループ企業のパン・デパンの『釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ』の情報を発信

店内で「道の駅」パネル展を開催

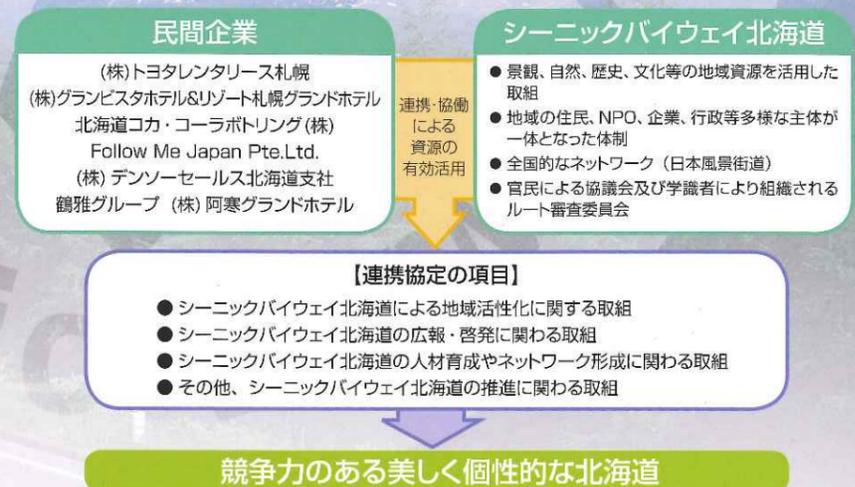
▲店内にシーニックバイウェイ北海道のチラシを設置

シーニックバイウェイ オフィシャルマークについて

HOKKAIDO Scenic Byway

地域の人たちが主体となって取り組む「美しい景観づくり」や「魅力ある観光空間づくり」の熱い心は訪れる人たちに感動のココロを呼びおこします。「心とココロ」が出逢う時「活力ある地域づくり」が動き出します。

「道」をハートの形にしたオフィシャルマークは、いわば「シーニックバイウェイ制度の心」です。

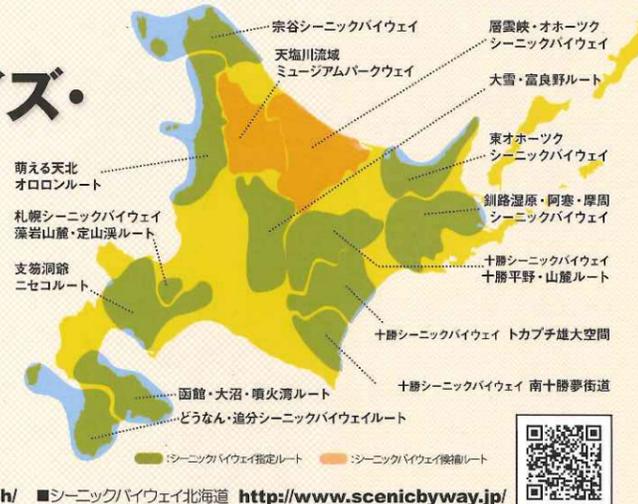


シーニックバイウェイ北海道

ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2015

シーニックバイウェイ北海道推進協議会は、シーニックバイウェイ北海道の活動の3要素「美しい景観づくり」「活力ある地域づくり」「魅力ある観光空間づくり」に資する活動で、他の模範となり、将来への発展性が高く評価できる活動を選出・表彰する取り組みとして「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト」を平成20年度から実施しています。表彰は、活動団体の投票で選出する【活動団体賞】、有識者委員の審査を経て選出する3つの【部門賞】及び各部門賞から最も優秀な活動を【最優秀賞】として決定・表彰しています。以下に「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2015」の受賞活動を紹介します。

■シーニックバイウェイ北海道推進協議会 http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_doro/sbh/ ■シーニックバイウェイ北海道 <http://www.scenicbyway.jp/>



そらの森の植樹活動 ~地域で育てる森プロジェクト~

部門賞(地域) 最優秀賞

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

ルート代表: 桐木 茂雄氏

弟子屈町の弟子屈飛行場跡地を「そらの森」と名づけ、森林再生を目指した森づくりを行っています。平成22年度から始めた取り組みも、6年経過し、はじめは苗木だった木々も少しずつ育ってきています。私たちの森づくりには2つの工夫があります。ひとつは、ドングリやクワミを弟子屈町内から拾い集めて、種まきを行い、苗木づくりを行っていること。もうひとつは、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイのシーニックカフェプロジェクトと連携し、森づくりの苗木代や維持費を含んだオリジナルエコバック、オリジナルタンブラーをシーニックカフェで販売していることです。苗木を植えることは簡単ですが、森となるまでには、継続した活動と長い目でみた維持費が必要となります。これからも、森づくり以外の事業とも連携し、「そらの森」を地域と共にゆっくりと育てていきたいと思ひます。



ウェルカム 北海道新幹線開業シーニックdeナイト

部門賞(観光) 団体賞(活動)

函館・大沼・噴火湾ルート どうなん・追分シーニックバイウェイルート

ルート代表: 金道 太郎氏(函館・大沼・噴火湾)、北島 孝雄氏(どうなん・追分)

北海道新幹線開業日の3月26日、新幹線が来られる観光客への「おもてなし」と、長年地域が切望し続けた「喜びの気持ち」を手作りによるワックスキャンドル1,300本にそれぞれの想いを書き込み、新函館北斗駅・木古内駅・函館駅の3駅同時に「ウェルカム北海道新幹線開業シーニックdeナイト」事業として実施しました。このワックスキャンドルは、地元コミュニティラジオ等を通じて牛乳パックを収集し、製作体験会開催によりキャンドルを製作するなど、準備段階から幅広い層の関係者が一体となり、道南地域全体で連携、気運を高めながら実施することができました。今後も2ルート間の連携を強固にし、事業を展開していきたいと思ひます。

シーニックデッキの設置

部門賞(景観)

東オホーツクシーニックバイウェイ

ルート代表: 高谷 弘志氏

駐車スペースがある11箇所の景観の良いポイントに、ウッドデッキを設置。旅行者等がゆっくりと景色を眺め休憩する事により、東オホーツク地域全体の景観PRをはじめ地域との交流を促進しています。また、「マルシェ」として農産物等の特産品販売等も実施することで、ビジネスの創出を図るとともに、道路利用者のオアシスを目指します。

【これまでのベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト】

- ★2014年度最優秀賞 **ライフコンシェルジュ育成事業** (十勝シーニックバイウェイ トカプ子雄大空間)
- ★2013年度最優秀賞 **タカラモノプロジェクト** (支笏洞爺ニセコルート)
- ★2012年度最優秀賞 **トカプ子雄大空間** (十勝シーニックバイウェイ トカプ子雄大空間)
- ★2011年度最優秀賞 **学校シーニックバイウェイ** (十勝シーニックバイウェイ 南十勝夢街道)
- ★2010年度最優秀賞...ヒラメ底建網オーナー in 選別 (萌える天北オロロンルート)
- ★2009年度最優秀賞...雪のアートプロジェクト「ウィンターサーカス」(大雪・富良野ルート)、民間情報拠点「シーニックカフェ」の連携した取り組み (釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ)
- ★2008年度最優秀賞...Scenic Night 2008 ~灯りが繋ぐ雪の道~ (支笏洞爺ニセコルート)

■シーニックバイウェイ北海道(構成団体・機関) 北海道商工会連合会、北海道経済連合会、北海道商工連合会、北海道観光振興機構、日本観光振興協会北海道支部、日本旅行業協会北海道支部、日本自動車連盟北海道本部、北海道、林野庁北海道森林管理局、経済産業省北海道経済産業局、環境省北海道地方環境事務所、国土交通省北海道運輸局、国土交通省北海道開発局 ■シーニックバイウェイ北海道(協力団体及び機関) 北海道農業協同組合中央会、北海道林業協会、北海道市長会、北海道町村会、株式会社ACT NOW、総合商研株式会社、株式会社えんりいしゃ、株式会社ゼリン、株式会社リクルート北海道じやらん、パナソニックシステムネットワークス株式会社

シーニックバイウェイ北海道

ルート紹介



指定ルートの概要

指定ルートは、地域発案による「ルート運営活動計画」に基づき、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力的な観光空間づくりに取り組みます。なお、指定ルートは「行政連絡会議」が設置され、関係機関により各種活動への参加、連携した活動などが行われます。

候補ルートの概要

候補ルートは、ルート独自の地域活動を通して、地域の連携、人材の育成、地域資源の発掘などを進め、ルート全体の理念や目標の熟度を高めて、ルート指定を目指します。

支笏洞爺ニセコルート

テーマ：美しい湖と秀峰、火山に出逢えるルート

支笏洞爺国立公園とニセコ積丹小樽国定公園の2つの国立・国定公園を走る支笏洞爺ニセコルートは美しい湖と秀峰、火山に出逢える地域です。支笏洞爺ニセコルートは3つのエリアで構成されています。

【活動方針】

- ウェルカム北海道エリア
- 住民や沿道の企業の協力による北海道の玄関口としての活動展開
- 様々な活動を通じた新たな活動団体の参加促進と地域の連携〈洞爺湖エリア〉
- エリアの魅力を高めるような持続的な活動の体制づくり
- 各種活動を通じた地元の子どもたちを含めた積極的な人材育成〈ニセコ羊蹄エリア〉
- 地域コミュニティと連携した羊蹄山や尻別川の景観づくり・自然環境の保全
- きめ細かな情報の発信と地域とのふれあいを大切にした観光の推進



千歳ウェルカム花ロード ver.13



タカラモノプロジェクト

大雪・富良野ルート

テーマ：四季を彩る花人街道

大雪山・十勝岳連峰の裾野と山懐を通る大雪・富良野ルートは、パッチワークのように美しい丘陵田園やラベンダーなどの花々に彩られ、映画やドラマ、CMの舞台となっています。ジャガイモや麦など良質の農産物にも恵まれるほか、十勝岳温泉や吹き上げ露天風呂など数多くの温泉がわき、ゆったりとした時の流れと共に心が癒される環境があります。

【活動方針】

- 大雪山・十勝岳連峰を美しく見せ、丘陵地の田園景観を保全する
- 沿道景観を整えとともに、コリドーとしての連携や参加意識を醸成する
- ユニバーサルデザインの推進と田園型リラクゼーション観光の充実
- 農業と連携した観光のしくみづくりやオペレーション機能の充実



シーニック情報案内所情報拠点の設置



沿道の清掃活動 ゴミゼロキャンペーン

シーニックバイウェイ北海道

東オホーツク シーニックバイウェイ

テーマ：ロマンティックヒーリング・風を感じて走る道

知床、阿寒の2つの国立公園を有する東オホーツクシーニックバイウェイは広大な畑地景観、野趣あふれる山岳、ハクチョウが飛来する湖沼、原生花園、豊富な味覚、明瞭な四季など北海道観光のよさが凝縮されている地域です。また我が国唯一の流水地帯でもあり、人々の心を潤し、感動を与えてくれる憧れの地として道内外から多くの観光客が訪れています。

【活動方針】

- オホーツク海や知床連山などを美しく見せるための沿道の保全・啓蒙
- 鮮やかな四季の色彩を見せるための沿道の連携やビューポイントの創出
- 風を感じさせるマグネットポイントの創出や滞在メニューの創出・連携
- 農・水・林・地域文化資源の発掘や地域連携による地域情報の発信



シーニックマルシェの開催（網走）



除雪ボランティア（ウトロ）

函館・大沼・噴火湾ルート

テーマ：人と人をつなぐ道

空路・海路・鉄路における北海道の玄関口を持ち、“北海道において北海道にあらず、されど東北にあらず”の独特な土地柄を体感できます。函館山をとりまく異国情緒あふれる街並み、乗馬やカヌーなどの自然体験ができる大沼周辺、古代ロマンあふれる縄文遺跡群などがあり、都市景観から農村景観、漁村景観と様々な姿を見せてくれます。また地域住民と来訪者の交流を深める企画として「シーニックdeナイト」、「シーニックの森づくり」、「シーニック清掃活動」などを開催しています。

【活動方針】

- 地域の誇れる景観を掘り起こし、保全・改善、活用する
- 地域一人ひとりが地域資源の大切さを知り、そしてそれを活かす活動を追求する
- 自然の尊さ、人のぬくもりを伝える
- ITや地域メディア等を活用した効果的な情報を共有し、発信する



シーニック de ナイト in 函館新道



シーニックの森づくり事業（植樹経路調査）



宗谷シーニックバイウェイ

テーマ：あたたかい最北のみち

利尻礼文サロベツ国立公園を有する宗谷シーニックバイウェイは、秀峰利尻富士、水平線までつづくサロベツ湿原、海拔0mから高山植物を見ることができる礼文島、雄大な周水河地形の宗谷丘陵など厳しい環境に育まれた豊かな自然が残る地域です。また自然を活かした広大な酪農場、豊かな漁場もあり、食による感動も与えてくれる日本最北エリアを形成しています。

【活動方針】

- 魅せるための景観形成
- 守り、育てる環境保全
- 「ひと」と「もの」をつなぐ情報発信
- おもてなしの心をもった観光演出
- 地域における連携活動



宗谷の地域資源を掘り起こすワークショップの開催



新しい宗谷観光の開発～宗谷版スイス・モビリティ～



新しい宗谷観光の開発～宗谷版スイス・モビリティ～

釧路湿原・阿寒・摩周 シーニックバイウェイ

テーマ：神秘的な自然のあり様を五感で感じるダイナミックルート

釧路湿原国立公園や阿寒国立公園をはじめとする世界的な観光地を含むルートです。手付かずの自然の残るラムサール条約登録湿地、釧路湿原を中心とした釧路湿原エリア、雄大な山岳自然景観に囲まれ、マリモの眠る阿寒湖を中心とする阿寒湖エリア、原始林に囲まれた神秘的な湖、摩周湖や屈斜路湖を含む弟子屈エリア、なだらかに続く牧草地と格子状防風林が独特の開放感を醸し出す中標津エリアの4つのエリアで構成されています。

【活動方針】

- 美しく個性豊かな地域景観の形成、まちづくり世界に誇る地域自然の保護と利用
- 「憧れ」を「大好き」に変えるひがし北海道の旅
- 「顔が見える」、「匂が伝わる」活きた情報の発信



そらの森（弟子屈飛行場跡地）での植樹活動



協働での休憩施設や駐車場の清掃活動

萌える天北オロロンルート

テーマ：暮らしぶりの映し。北の光が続く道。

北海道の日本海側北部に位置し、厳しく、そして美しい自然の中で営み続けてきた「暮らしぶりの映し」が魅力である萌える天北オロロンルートは、日本海オロロンラインとしても親しまれ、暑寒別岳等の山並みや、天売「鳥」、焼尻島への眺望、夕日の階段等、美しい自然景観があります。

【活動方針】

- 愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出
- 自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信
- 地球に優しい「暮らしぶり」のお手本づくりと促進
- 暮らしに根ざしたもてなしによる暖かい交流の魅力づくり
- 先代の暮らしぶりと新たな価値観を将来に伝え楽しむ



萌か留た（地域情報発信プロジェクト）



ひらめ底建網オーナーin 遠別（オーナーによる魚の見学風景とオリジナルたご焼き「明天焼」の販売）

十勝シーニックバイウェイ

トカプチ雄大空間

テーマ：十勝型産業の創出と人口増加

北海道・十勝の空の玄関口である帯広市をはじめ、周辺の7町を含む十勝中部エリアは、中心に広大な十勝平野、西に日高山脈、東に太平洋という恵まれた資源を持ち、また、広大で平坦な畑作酪農地帯という地域特性から「高規格幹線道路」「高所から地域を鳥瞰する」「先人の開拓の歴史」まで含めた四次元空間の魅力が他にないみどころを提供するエリアです。

【活動方針】

- 「観光」 ルートの地域資源発掘に力を入れ、魅力あるモデルルートを設定し、新しいメディアを活用して広く情報発信を行います。
- 「地域づくり」 ホスピタリティの向上、情報共有や地域住民との連携強化などによる人づくり・街づくりを推進し、十勝型産業の開発を目指します。
- 「景観」 美しい景観の発掘と、景観阻害要因となる看板の撤去等の整備、雄大な景観デッキの整備、カフェの整備を進めます。
- 「環境」 環境モデル都市・エリア実践のための連携を強化し、環境に関わる新産業による就業人口や移住・定住人口の増加を目指します。



2014とかちガーデン・スイーツ・温泉パンフレット



「ライフコンシェルジュ（ご当地風土アドバイザー）」による観光ガイド活動

十勝シーニックバイウェイ

十勝平野・山麓ルート

テーマ：スケールは日本一 広さ・環境・ツーリズム・農

広大な十勝平野の西北部、日高と東大雪の山裾を巡るルート上に、希少な動植物が息づく原生林、訪れる人の心を癒す森と湖、エコツアーやグリーンツーリズムなどのあらゆる体験施設と、地域産業である「農」の素材を活かしたファームレストランなどが数多く点在し、食と農とアウトドアを満喫することができます。

【活動方針】

- 「道とみち、街と町、現在と未来をつなぐ十勝平野・山麓ルート」活かそう・守ろう・地域資源



シーニックカフェ スタンプラリー 2015

十勝平野・山麓ルート MAP

十勝シーニックバイウェイ

南十勝夢街道

テーマ：夢を育む海と大地と清流のみち

十勝平野の南部に位置する3町2村で構成された「南十勝夢街道」は、雄大な日高山脈を望みながら、いくつもの清流を渡り広大な田園地帯から太平洋へと続く道をつなぐルートです。海と山と大地の魅力を存分に味わうことができるエリアです。

【活動方針】

- 「観光」 ホスピタリティの充実をはかり、南十勝にしかない魅力をアピール、地域の連携による着地型観光に取り組む
- 「景観」 地域の顔としての美しい景観づくりの推進、景観づくりのためのルール設定、景観を生かした活動を展開する
- 「地域づくり」 地域連携、情報拠点としての人材育成に取り組むほか、連携による地域イベントの活性化に取り組む



フォトコンテストカレンダー 2016

学校シーニックバイウェイ

札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山溪ルート

テーマ：「住んでよし、訪れてよし」の都市空間
～都市と自然と人が紡ぎ出す札幌の魅力～

札幌市の南西部、都心から30分～1時間の所に位置し、交通アクセスが良く、開拓時代からオリンピックまでの歴史、美術館、工房、科学館、大学などでの学びの体験や標高1000mを超える山、温泉、国営公園など雄大な自然での、キャンプ、スキー、カヌー、乗馬、森林散策、果物狩りなどの自然体験ができる「豊かな環境」とここに住む「人々の暮らし」が調和する魅力的なエリアです。

【活動方針】

- 美しい景観づくり：札幌の玄関口にふさわしい魅力あふれる景観づくり
- 活力ある地域づくり：自然・歴史・文化を伝え、いきいきと暮らせる地域づくり
- 魅力ある観光空間づくり：札幌の奥の深さを感じる滞在型の観光空間づくり



雪あかりイベントの開催（藻岩下やさい雪あかり）

「感動・寄り道GUIDE」の制作

層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ

候補ルート

- 山・海・花の優れた資源を活かした景観づくり
 - ・優れた景観資源の保全と活用
 - ・新たな名所となる隠れた景観資源の発掘・育成
 - ・国内外に向けた景観資源の情報発信
- 地域資源を活かした魅力ある観光空間づくり
 - ・特別な「食」を活かした地域間連携
 - ・地域資源の周遊性向上と滞在日増加に向けた立ち寄り施設充実、地元とのふれあい時間創出
 - ・地域の見える化のスタートとしての着地型観光商品の開発
 - ・既存の周遊観光の魅力増
- 自然環境と歴史・文化を礎にした活力ある地域づくり
 - ・美しい自然環境の保全
 - ・地域に伝わる歴史・文化の発掘・継承
 - ・地域情報の一元化と国内外に向けた発信



シーニックマルシェの開催



地元めし・隠れたビューポイントマップの作成

■ シーニックバイウェイ北海道推進協議会【構成団体・機関】

北海道商工会議所連合会、北海道経済連合会、北海道商工会連合会、北海道観光振興機構、日本観光振興協会北海道支部、日本旅行業協会北海道支部、日本自動車連盟北海道本部、北海道、林野庁北海道森林管理局、経済産業省北海道経済産業局、環境省北海道地方環境事務所、国土交通省北海道運輸局、国土交通省北海道開発局

■ シーニックバイウェイ北海道【協力団体及び機関】

北海道農業協同組合中央会、北海道林業協会、北海道市長会、北海道町村会、株式会社 ACT NOW、総合商研株式会社、株式会社えんれいしや、株式会社ゼンリン、株式会社リクルート北海道じゃらん、パナソニック システムネットワークス株式会社



〈発行〉シーニックバイウェイ北海道推進協議会 事務局

TEL:011-709-2311 詳しくは▶ URL: <http://www.hkd.mlit.go.jp/sbh/>

〒060-8511 札幌市北区北8条西2丁目 札幌第1合同庁舎 国土交通省北海道開発局 開発監理部 開発連携推進課 建設部 道路計画課

どうなん・追分 シーニックバイウェイルート

テーマ：「ひと」と「みち」がつながる
北の大地の地域力再生へのチャレンジ

ルートには豊かな自然・歴史・文化・食資源があり、各地域では連携を深めた新たな取組が始まっています。

北海道新幹線開業により新たな交流人口の拡大が予想される今、「ひと」と「みち」の繋がりをより活動に反映させ、活力ある地域再生へチャレンジします。そして現存する地域の宝物を連携させることにより、付加価値をつけ観光資源にする等、自らが誇りうるものとして取組んでいきます。

【活動方針】

- どうなんの「道」の宝探し、歴史・文化をたどる連携と活用
- 北海道新幹線開業に向けた対応と取組
- ビュースポットの発信と維持活動
- 地域の食と産業を楽しむ体験観光づくり
- 各地域の観光イベントの連携
- 情報共有と情報発信の相乗効果
- 交流人口を高める人材の育成



殿様街道探訪ウォーク



サラキ峠チューリップの球根植え

天塩川流域ミュージアムパークウェイ

候補ルート

- 自然環境を活かした景観づくり
 - ・ルートの景観向上を目指した「花」の取り組み、広域的な「花街道」づくり、羊と雲の丘、コスモロード・そばの花観賞スポットの整備、ひまわり植栽、花観光の推進等
 - ・「自然と人と道」を繋ぐ取り組み、フットパス、天体観測、ジオパーク構想の推進等
- 地域の特性と文化を活かした地域づくり
 - ・「知る・観る・触れる」地域の歴史の掘り起こし、舞台芸術、森林ミュージアム構想
 - ・「学ぶ・伝える」森林資源を活用した教育、森と川の学校、そば打ち文化の普及、「シーニックの森」の推進
- 地域産業と特性を活かした観光づくり
 - ・エコミュージアム、持続可能な花観光の確立、各種イベントの実施（通年）
 - ・広域スタンプラリーの展開
 - ・ご当地グルメの開発
 - ・自然を体感できる参加体験メニュー：森林、木工、釣り、カヌー等
 - ・情報ツールの作成：パンフレット等



天塩川のカヌーイベント



地元木材を活用した自転車スタンドの設置（自然と人と道を繋ぐ取り組み）